

音響・映像・照明学科

2年次生

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	プロデュース I
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

各自の専攻に囚われる事なく、自由な発想で作品を制作する。音響・映像・照明学科として学んだ知識と経験を活かしながら、人の耳目に触れる事を前提とした作品作りを学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

人に見せる事を意識した作品を完成させ、作品に合わせた公開方法で多くの人に見て頂く事ができる作品を作る事を目標とする

授業計画（1回目から7回目）

- ① 作品概要検討①：作品概要を検討、制作グループ編成
- ② 作品概要検討②
- ③ 調査・研究：様々な方法で作品に対する調査や研究を行い、作品の内容に落とし込む
- ④ 制作スケジュール・工程確認：制作スケジュールや行程表を作成、全体像を確認
- ⑤ 制作①：グループ毎に制作を行う
- ⑥ 制作②
- ⑦ 中間試験：制作内容と進行状況の報告

中間試験評価方法・評価基準

制作内容と進行状況を評価

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 進捗状況確認：グループ毎の状況報告、指導担当者との相談
- ⑨ 制作①：グループ毎に制作を行う
- ⑩ 制作②

- ⑪ 制作スケジュールの見直し：制作スケジュール通りに進行しているのかを確認。必要によってスケジュール・工程の見直しを行う
- ⑫ 制作③：グループ毎に制作を行う
- ⑬ 制作④
- ⑭ 制作⑤
- ⑮ 期末試験：進捗状況の報告

期末試験評価方法・評価基準

進捗状況の確認を行い評価

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	プロデュースⅡ
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

各自の専攻に囚われる事なく、自由な発想で作品を制作する。音響・映像・照明学科として学んだ知識と経験を活かしながら、人の耳目に触れる事を前提とした作品作りを学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

人に見せる事を意識した作品を完成させ、作品に合わせた公開方法で多くの人に見て頂く事ができる作品を作る事を目標とする

授業計画（1回目から7回目）

- ① 進捗状況確認：グループ毎の状況報告。指導担当者との相談
- ② 制作①：グループ毎に制作を行う
- ③ 制作②
- ④ 制作③
- ⑤ 制作④
- ⑥ 制作⑤
- ⑦ 中間試験：進行状況の報告

中間試験評価方法・評価基準

制作内容と進行状況を評価

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 制作・実施①：各グループの制作内容に合わせた形で実施・発表を行う
- ⑨ 制作・実施②
- ⑩ 制作・実施③

- ⑪ 制作・実施④
- ⑫ 制作・実施⑤
- ⑬ 制作・実施⑥
- ⑭ 制作・実施⑦
- ⑮ 期末試験：完成した作品や実施内容のプレゼンテーション

期末試験評価方法・評価基準

完成した作品や実施内容のプレゼンテーションを行う。

試験：100%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	コンテンツビジネス I
担当講師名	田中 正
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界において28年の実績を持ち、ドメスティックレコード会社、外資系レコード会社を経て、インディーズのレコード会社として独立。現在レコード会社、音楽出版社の代表取締役とレコーディングスタジオの役員を兼務。

授業内容

音楽業界（レーベル、プロダクション、音楽出版社）の即戦力になるための基礎から実践までを学び経験します。春学期では音楽への関わり方を趣味からビジネスに変えるための知識を身につけレーベルの制作部、宣伝部、営業部、法務部の業務を学び万能なスタッフになることを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音響・映像・照明の技術者として音楽ビジネス業界全般の構造を理解し、制作におけるレーベルやプロダクション、音楽出版社、コンサート制作会社、各地プロモーターの役割を理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽業界のしくみと権利、関係各社の役割と現状等、音楽業界全般についてお話しします。
- ② レーベルとプロダクションそれぞれの業務内容と担当部署の役割の説明。
- ③ 業界各社の役割について説明します。
- ④ 現状のテレビ等マスコミと業界の関係についてのディスカッション。
- ⑤ プロダクションビジネスについて説明します。
- ⑥ 業務にまつわる書類に関して詳細説明とレクチャー。
- ⑦ 中間試験：提出物の提出、関心のあるアーティスト等コンテンツについての紙資料

中間試験評価方法・評価基準

提出物により理解度を測ります。関心のあるアーティスト等コンテンツについての紙資料の作成。

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 契約のあれこれ。専属アーティストとは？出会いから契約まで事例説明。
- ⑨ 制作・宣伝① プランニング、プロフィール、ミュージックビデオ
- ⑩ 制作・宣伝② 宣伝広告、テレビ・ラジオ・インターネット
- ⑪ 音楽販売について、CD ショップや配信会社及び流通。
- ⑫ イベント、プロモーターについての特徴と説明。
- ⑬ コンサート、イベント実施に関する費用に関する事例。
- ⑭ コンサート制作会社と全国各地のコンサートプロモーターについての講義。
- ⑮ 期末試験：筆記試験、音楽、コンサート、イベント等の制作行程（費用）に関する内容。

期末試験評価方法・評価基準

音楽、コンサート、イベント等の制作行程（費用）に関する理解度とともに、文章構成能力、授業中態度や受講時の積極性のある発言等をふまえて総合的に評価いたします。

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	コンテンツビジネスⅡ
担当講師名	田中 正
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界において28年の実績を持ち、ドメスティックレコード会社、外資系レコード会社を経て、インディーズのレコード会社として独立。現在レコード会社、音楽出版社の代表取締役とレコーディングスタジオの役員を兼務。

授業内容

音楽業界（レーベル、プロダクション、音楽出版社）の即戦力になるための基礎から実践までを学び経験します。春学期では音楽への関わり方を趣味からビジネスに変えるための知識を身につけレーベルの制作部、宣伝部、営業部、法務部の業務を学び万能なスタッフになることを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アーティストの発掘からデビューまでの業務を理解し、どのようにイベントや作品がプランニングされ、実現されるのかを知る。またテレビ、映画、雑誌、書籍からゲーム、webまで幅広いコンテンツ制作にも焦点を当てていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 業界への就職活動と雇用についての説明。
- ② レコード会社の具体的な収益について説明します。
- ③ プロダクションの具体的な収益について説明します。
- ④ 音楽出版社と著作権使用料について説明します。
- ⑤ JASRAC と NexTone、に関する講義。
- ⑥ 作詞作曲家の権利についての講義。
- ⑦ 中間試験：関心のあるアーティスト等コンテンツの具体的なプロモーション計画とそれに関わる費用についてのプランニング提出

中間試験評価方法・評価基準

提出物により理解度を測ります。
出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ゲーム会社の現状についてディスカッション。
- ⑨ テレビ業界のしくみについての講義。
- ⑩ ラジオ業界のしくみについての講義。
- ⑪ 出版業界の役割についての講義。
- ⑫ 国内、海外の映画産業の歴史と現状について。
- ⑬ 広告代理店の業務内容の説明。
- ⑭ Google 及び YouTube 等動画サイトについてディスカッション。
- ⑮ 期末試験：筆記試験、年間を通じた授業内容の中で、音源制作の基本行程に関する設問。

期末試験評価方法・評価基準

レコード会社、レーベルとの印税関連。またプロダクションにおけるアーティストとの関係（金銭の分配も含む）に関する設問等を春期末テストより少し複雑にし、理解度を判断いたします。

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	専門技能検定講座
担当講師名	佐藤清志/植田 寛/青木美恵
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

検定取得に関する仕事の現場経験を積んだ講師が指導いたします。

授業内容

コンサート PA 専攻（舞台機構調整技能検定）、映像制作専攻（ドローン検定）の技能検定取得に向けた講座。

レコーディング専攻（Pro-tools 検定）、照明専攻（照明：舞台・テレビジョン照明技術者技能検定）の講座内容は授業内容にて替えるものとする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各専門技能検定試験の合格を目標とする

授業計画（1回目から7回目）

- ①検定の理解
- ②検定試験対策
- ③検定試験対策
- ④検定試験対策
- ⑤検定試験対策
- ⑥検定試験対策
- ⑦中間試験：過去の問題等を使用し、理解度を確認できる内容の試験

中間試験評価方法・評価基準

授業に取り組む姿勢と検定試験の結果も評価に加える

出席：50% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧検定試験対策
- ⑨検定試験対策

⑩検定試験対策

⑪検定試験対策

⑫検定試験対策

⑬検定試験対策

⑭検定試験対策

⑮期末試験：過去の問題等を使用し、理解度を確認できる内容の試験

期末試験評価方法・評価基準

授業に取り組む姿勢と検定試験の結果も評価に加える

出席：50% 試験：50%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	メンテナンス
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

実際にエンターテインメントの仕事の現場経験を積んだ講師が指導いたします。

授業内容

PA・レコーディング・映像・照明各分野に関わりの深い機器に対して理解を深め、不具合のチェックやメンテナンス方法を学ぶ。制作の現場で必要な機材のチェックポイント等理解をする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

PA・レコーディング・映像・照明各分野に関わりの深い機器に対して理解を深め、不具合のチェックやメンテナンス方法を学ぶ。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 機材の名称と動作原理の理解①
- ② 機材の名称と動作原理の理解②
- ③ 機材の名称と動作原理の理解③
- ④ 機材の名称と動作原理の理解④
- ⑤ 機材の名称と動作原理の理解⑤
- ⑥ 機材メンテナンス①
- ⑦ 中間試験：機材を使ったメンテナンスの実技

中間試験評価方法・評価基準

機材を使ったメンテナンスの実技による評価

出席：100%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 機材メンテナンス②
- ⑨ 機材メンテナンス③

- ⑩ 機材メンテナンス④
- ⑪ 動作確認と調整①
- ⑫ 動作確認と調整②
- ⑬ 動作確認と調整③
- ⑭ 動作確認と調整④
- ⑮ 期末試験：機材を使ったメンテナンスの実技

期末試験評価方法・評価基準

機材を使ったメンテナンスの実技による評価

出席：100%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	PA・SR I
担当講師名	朴 寿焄
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は韓国のロックフェスや大型国際会議で音響エンジニアの経歴と日本音響学会、韓国音響学会そして AUDIO ENGINEER SOCIETY (通称 AES) の会員として研究活動を行う音響研究者の経歴を持ちます。

授業内容

コンサート・イベント・各種舞台などの様々のフィールドでの音響の仕事を行うために、知識と技術はもちろん、現場でのコミュニケーションを取るための訓練も行います。併せて、危険が多い舞台の仕事の中で、安全に作業を行う訓練も行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コンサート・イベント・各種舞台等で使用される音響機器・システムを理解する事が出来る。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ホールでの安全作業：ホール・舞台の機構を理解し安全に作業を行う基本となる知識を習得
- ② スピーカーセッティング：ホール内設備を使い安全なスピーカー設置を行う
- ③ 機材セッティング：マイクスタンド・ケーブルの取り扱いを理解し、早く・正確に行う
- ④ システムセッティング①：小規模システムをセッティング～サウンドチェック
- ⑤ システムセッティング②：小規模システムをセッティング 早く正確に安全に作業を行う
- ⑥ ライブシュミレーション①：ライブのセッティングをシミュレーション。
プランニングから仕込み～サウンドチェックまで行う
- ⑦ 中間試験：提示された編成でライブを行う為の
プランニング（仕込み図・回線図等）の提出

中間試験評価方法・評価基準

提示された編成でライブを行う為のプランニング（仕込み図・回線図等）の提出。理解度、完成度を評価します。

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧仕込み図①:仕込み図から必要機材を割り出し、機材セッティングを行う
- ⑨仕込み図②:提示された仕込み図を理解し、機材を選定し、セッティングを行う
- ⑩システムチェック①:回線チェックと接続ミスによるトラブルを発見し対応する力を身につける
- ⑪システムチェック②:機材の正常な動作を理解し、トラブルの発見と対応を学ぶ
- ⑫マイクアレンジ①:様々なマイクの特徴を理解し、楽器へのアレンジを実践的に理解します
- ⑬マイクアレンジ②:指定された楽器編成のマイクアレンジを行う
- ⑭モニタースピーカー①:モニタースピーカーの役割を理解し、効率的なモニタースピーカーのセッティングを実践、モニタースピーカーのチューニングを理解
- ⑮期末試験:指定されたシステムを時間内にグループでセッティングする。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 指定されたシステムを時間内にグループでセッティング
事前の準備とチームとしてのコミュニケーションも評価
出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

授業だけでは上達するのに限界があるため学内外イベントに積極的に参加してください。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	PA・SR II
担当講師名	朴 寿焄
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は韓国のロックフェスや大型国際会議で音響エンジニアの経歴と日本音響学会、韓国音響学会そして AUDIO ENGINEER SOCIETY (通称 AES) の会員として研究活動を行う音響研究者の経歴を持ちます。

授業内容

より高度な音響システムを理解し、中規模以上の会場を想定した音響システムの構築を行います。

デジタル伝送を使用したシステムを理解し、複雑になるシステムを想定した仕込み図・回線表を作る事ができる力を身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

チームとしての動き方、各自の分担や責任など、舞台作業として絶対に欠くことの出来ない部分を実践的に身に付けて行きます。各自の応用力を高め、プロとしての自覚をもちましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ライブシュミレーション③:バンド編成のライブを想定し、システムのプランニングと仕込み図・回線図を作成
- ② ライブシュミレーション④:バンド編成のライブを想定し、システムのプランニングと仕込み図・回線図を作成
- ③ リハーサル①:実際に演奏を行い、ミュージシャンとコミュニケーションを取りながら音作りを行う
- ④ リハーサル②:実際に演奏を行い、ミュージシャンとコミュニケーションを取りながら音作りを行う
- ⑤ モニターミックス①:効率的なモニターミックスを考え、実践的に学ぶ
- ⑥ モニターミックス②:モニターミキサーを設置、FOH側との違いを理解
- ⑦ 中間試験:ライブを想定した状況での実技試験

中間試験評価方法・評価基準

ライブを想定した状況での実技試験。

チームとしての動き方、各自の分担や責任など、舞台作業として絶対に欠くことの出来ない部分が身に付いているかどうかを評価します。

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧システムプランニング:チームに分かれ指定された編成でライブを行う為のプランニングを行う。
- ⑨ライブ実践①:プランニングチームが中心となりスタッフを動かしながらライブPAを行う。
- ⑩問題の抽出と解決策①:前回行ったプランを見直し、問題点を整理し、解決策を見つける。
- ⑪ライブ実践②:プランニングチームが中心となりスタッフを動かしながらライブPAを行う。
- ⑫問題の抽出と解決策②:前回行ったプランを見直し、問題点を整理し、解決策を見つける。
- ⑬ライブ実践③:プランニングチームが中心となりスタッフを動かしながらライブPAを行う。
- ⑭問題の抽出と解決策③:前回行ったプランを見直し、問題点を整理し、解決策を見つける。
- ⑮期末試験:指定された編成でのライブ実施に向けてのプランニング。

期末試験評価方法・評価基準

指定された編成でライブを行う為のプランニングの出来栄で評価します。

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

学校にある機材を常に比較し、正しい選び方を身につけるように心がけましょう。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音響理論 I
担当講師名	朴 寿焄
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は韓国のロックフェスや大型国際会議で音響エンジニアとの経歴と日本音響学会、韓国音響学会そして AUDIO ENGINEER SOCIETY (通称 AES) の会員として研究活動を行う音響研究者の経歴を持ちます。

授業内容

技術は体で覚える事も重要ですが、理屈や理論・測定や計算を知っている事でスムーズで安全な作業を行える事も少なくありません。実際の仕込み図を元にケーススタディーとして実践的な「理論」を学びます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

数学や物理が苦手でも現場に必要な理論です。苦手意識を克服する事も大きな目標です。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 電気の知識：現場に必要な電気の計算、フレミングの法則自裁の積算の計算をする。
- ② 入力概念：マイクロフォン入力/ライン入力 /その他入力各種入力の取扱
- ③ 電源の計算：必要な機器がその電源で使えるか？電気の計算 和分の積
- ④ 電気の計算：オームの法則 キルヒホッフ第一法則 第二法則オームの法則の理解
- ⑤ 聴覚について：聴覚効果について理解等ラウドネス曲線
- ⑥ 音圧とは：音圧の表し方 dB とは d B の理解
- ⑦ 試験：筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧EQ について：EQ フィルターの回路フィルター回路の理解
- ⑨エフェクター：リバーブ・エコー・リミッター・コンプレッサーエフェクターの理解
- ⑩プロセッサ：ブリッジ回路・インピーダンスマッチング
- ⑪ミキシングコンソール：アナログミキシングコンソールのシグナルパスコンソールのシグナルパスの理解
- ⑫ワイヤレスマイク：ワイヤレスマイクについて電波・帯域・用途の理解
- ⑬DTM の理論：ProTools の構成理論デジタル録音機器の基礎知識
- ⑭マイクロフォン：マイクロフォンの特徴を理解・楽器用・測定用マイクロフォンの構造理論 各種マイクの理解
- ⑮試験：筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験の実施

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

計算を難しいと思わないようにしてください。簡単な式で解ける問題が大半を占めます。諦めず頑張ってください。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音響理論Ⅱ
担当講師名	朴 寿焄
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大型国際会議等で音響エンジニアとの経歴と日本音響学会、韓国音響学会そして AUDIO ENGINEER SOCIETY (通称 AES) の会員として研究活動を行う音響研究者の経歴を持ちます。

授業内容

2年間のまとめとして、今までにイベントやライブを行ってきた物を振り返り、少し深く入ってみましょう。理論や理屈を知らないまま自然と準備をしてきている自分自身がいるはず。

合わせて、これからプロの現場へ出て行く事となりますので、プロとしての作法や音の聴き方を身に付けていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な機器や理論・理屈を用い、条件に合わせたシステム構築や機材の選定ができるように理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①室内音響：音の反射・吸音・透過・ハウリングマージン、音場デザイン・音響仕込・位相・定在波・反射干渉
- ②生ラジオ番組制作：音楽／ナレ／BGM バランス／台本作成の要点。
生ラジオ番組制作の実践
- ③ホール音響：ライブハウスとクラシックホール音場の考察。ホール特性 残響特性
- ④楽器：弦楽器／管楽器／打楽器の発音理論。各楽器の発音原理の理解
- ⑤測定理論：残響・f 特測定・各種計算式・測定用マイク・スペアナ。
測定ソフト／各種測定の実践
- ⑥音響技術の今昔：スタジアムライブの PA システム今昔。
近代大規模イベントの PA システム
- ⑦試験：筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧デジタルミキサー 1: デジタルの基礎知識 A/D 変換 D/A 変換。デジタル基礎の理解
- ⑨デジタルミキサー 2: PA と録音機器の同期・デジタルアウトの理解。
タイムコードとハウスシンク
- ⑩スピーカーの接続: バイワイヤリング/バイアンプ / BTL 接続。
シリーズ接続とパラレル接続の理解、BTL 接続。
- ⑪音響仕込理論: 音響機器表記・音響シンボル・CAD・手書き・仕込図。
音響仕込の手順と進行の理解
- ⑫音楽ドラマ番組制作: 音楽/出演者/SE/台本作成の理論。
音楽ドラマ番組制作の要点
- ⑬システム構築1: 各自ライブハウス・ホール・スタジオ等の
音響設備のシステムプランニング
- ⑭システム構築2: 音響空間規模・電気容量にマッチした機器の選定。
システムプランニング実践
- ⑮試験 : 筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験の実施

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

試験で出題されたものは音響エンジニアとしては常識です。絶対忘れないようにしてください。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音響機器論 I
担当講師名	朴 寿焄
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は韓国のロックフェスや大型国際会議で音響エンジニアの経歴と日本音響学会、韓国音響学会そして AUDIO ENGINEER SOCIETY (通称 AES) の会員として研究活動を行う音響研究者の経歴を持ちます。

授業内容

技術は体で覚える事も重要ですが、理屈や理論・測定や計算を知っている事でスムーズに安全な作業を行える事も少なくありません。実際の仕込み図を元にケーススタディーとして実践的な「理論」を学びます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

様々な音響機器の取り扱い、測定機器の取り扱い等々のハードウェアについて学びます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①電気の知識：現場で必要な知識の確認。実際の積算の計算をする。
- ②仕込み図 1：仕込み図の読み方、仕込み図を見て準備。
- ③仕込み：仕込み図を見ながら必要機材の確認を行う。仕込み図を見て準備。
- ④仕込み図 2：仕込み図の書き方、仕込み図を書いてみる。
- ⑤打ち合わせ：チームに分かれてプランの打ち合わせ内容について。
チームに分かれて打ち合わせ。
- ⑥シミュレーション：PAのプランニングをする。チームに分かれてプラン作成
- ⑦中間試験：プランを作り、仕込み図・機材リストを作る

中間試験評価方法・評価基準

プランニングから機材準備までをトータルで考え実行可能なプラン表を提出
出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧EQ について：グラフィック EQ パラメトリック EQ それぞれの特徴や用途を理解
- ⑨エフェクター：各種エフェクターについて機能と効果を理解
- ⑩プロセッサー：プロセッサーの役割について
- ⑪ミキシングコンソール：アナログミキシングコンソールのシグナルパス
- ⑫ワイヤレスマイク：ワイヤレスマイクについて
- ⑬マイクロフォン：特殊なマイクのアレンジ
- ⑭再生機器オペレート：再生用機器のオペレート
- ⑮期末試験：各自のプランを作る

期末試験評価方法・評価基準

プラン表・仕込み図・回線表の提出 現実的なプランになっているかを評価
出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

計算を難しいと思わないようにしてください。簡単な式で解ける問題が大半を占めます。
諦めず頑張ってください。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音響機器論Ⅱ
担当講師名	朴 寿焄
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は韓国のロックフェスや大型国際会議で音響エンジニアの経歴と日本音響学会、韓国音響学会そして AUDIO ENGINEER SOCIETY (通称 AES) の会員として研究活動を行う音響研究者の経歴を持ちます。

授業内容

2年間のまとめとして、今までにイベントやライブを行ってきた物を振り返り、少し深く入ってみましょう。理論や理屈を知らないまま自然と準備をしてきている自分自身がいるはず。
合わせて、これからプロの現場へ出て行く事となりますので、プロとしての作法や音の聴き方を身に付けていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

機材による音の聞き分けや現場での作法などを理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音場測定 1：測定機器の使い方。実際の測定。
- ②音場測定 2：測定用ノイズについて。
- ③システムプランニング 1：機材の配置について配置図を作る。
- ④システムプランニング 2：実際にプランを作ってみる。トータルプランを試してみる。
- ⑤仕込み図と機材リスト 1：機材やケーブルの選び出し。
- ⑥仕込み図と機材リスト 2：機材準備と忘れ物チェック。
- ⑦中間試験：必要な仕込み図を作る。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施

出席 40% 試験 40% 平常点 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧デジタルミキサー 1：デジタルミキサーの仕組みを理解。
アナログコンソールを意識しながらオペレーション。
- ⑨デジタルミキサー 2：動作の確認。内臓のEQやエフェクターを使う。
- ⑩デジタルミキサー 3：アナログミキサーとのオペレートの違いを理解。
- ⑪デジタルミキサー 4：A/D変換とD/A変換 デジタルアウトの理解。
- ⑫シミュレーション 1：デジタルミキサーを使ったプランを作ってみる。
- ⑬シミュレーション 2：デジタルミキサーを使ったプランを作ってみる。
- ⑭まとめ：システムプランニング機材選定。デジタルミキサーのオペレーション等々まとめ。
- ⑮期末試験：各自のプランの発表を行う。

期末試験評価方法・評価基準

指定されたシステムでのプランニングの提出 自分のプランをより具体的にスタッフに説明できるか。プランの意図を伝えられるかを評価
出席 40% 試験 40% 平常点 20%

特記事項

機材は毎日のように触らないと覚えられません。常に触れるように心がけましょう。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	レコーディングⅢ
担当講師名	吉岡俊一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はエンジニア、プロデューサーとして音源制作を中心に、音楽ビジネス業界において海外と国内で20年以上の経験があります。

授業内容

高品位のプロレベルの機材を揃えたスタジオにおいて実践的で、実習的な授業を展開。いかにして世の中に流れる音楽が作られていくかを、技術的な側面はもとより、制作現場で必要となる実践的な知識も含めて学びながら、実際にレコーディングを含めた音源制作を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディングを基点として、音楽制作に関する全般的な基礎知識、技術を習得できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① スタジオの設備等に関する基礎知識、使い方を説明します。
- ② マイクとマイキングの基礎知識、またその応用理論を説明します。
- ③ 回線表の書き方とレコーディングプランの作成、その実施に関して説明します。
- ④ レコーディングを実際に行います。
- ⑤ レコーディングを実際に行います。
- ⑥ 実際に録音した音源を使って音楽制作ソフトのPro Tools上での編集作業を説明します。
- ⑦ 中間試験：録音したボーカルや楽器の編集を行い、ミックス作業ができる前準備を完成させる。

中間試験評価方法・評価基準

機材を含めたスタジオ設備や、音源制作におけるレコーディング作業の理解度を与えられた課題の作業内容から評価します。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ミキシングの実習：コンプレッサー、EQに関する解説、実習。
- ⑨ ミキシングの実習：リバーブ、ディレイ等のエフェクターに関する解説、実習。
- ⑩ ミキシングの実習：レベルの設定等、実践的なミキシングテクニックの解説。
- ⑪ レコーディングを実際に行います。
- ⑫ レコーディングを実際に行います。
- ⑬ ミキシングの実習：マルチトラックレコーディングのミキシングを実際に行います。
- ⑭ ミキシングの実習：マルチトラックレコーディングのミキシングを実際に行います。
- ⑮ 期末試験：マスタリングを行いミックスした音源を作品として完成させます。

期末試験評価方法・評価基準

ミキシングとマスタリングのプロセスを正しく理解しているかを、実習を通して評価します。
出席：40% 平常点 40% 試験：20%

特記事項

この授業は「サウンドデザイン理論Ⅰ」という授業とセットの為、授業内容は連動しています。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	レコーディングⅣ
担当講師名	吉岡俊一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はエンジニア、プロデューサーとして音源制作を中心に、音楽ビジネス業界において海外と国内で20年以上の経験があります。

授業内容

高品位のプロレベルの機材を揃えたスタジオにおいて実践的で、実習的な授業を展開。いかにして世の中に流れる音楽が作られていくかを、技術的な側面はもとより、制作現場で必要となる実践的な知識も含めて学びながら、実際にレコーディングを含めた音源制作を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディングを基点として、音楽制作に関する全般的な基礎知識、技術を習得できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期で学習した内容の復習と確認。
- ② 録音対象となる一般的な楽器の説明とそのレコーディング方法の解説と実習。
- ③ ピアノのレコーディングの解説と実習。
- ④ レコーディングを実際に行います。
- ⑤ レコーディングを実際に行います。
- ⑥ ミキシングに必要なさらに実践的な方法論の解説と実習。
- ⑦ 中間試験：外部機器をインサートして、録音したマルチトラック音源のミックス作業。

中間試験評価方法・評価基準

正しい手順とセットアップでミキシングが行われているかを評価します。
出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ミキシングの実習：コンプレッサー、EQに関する応用編。解説と実習。
- ⑨ ミキシングの実習：リバーブ、ディレイ等のエフェクターに関する応用編。解説と実習。
- ⑩ ミキシングの実習：“ヘッドルーム”に関する解説と実習。
- ⑪ レコーディングを実際に行います。
- ⑫ レコーディングを実際に行います。
- ⑬ ミキシングの実習：マルチトラックレコーディングのミキシングを実際に行います。
- ⑭ マスタリングの実習：CD やストリーミング等目的に合わせたマスタリング方法を解説、実習。
- ⑮ 期末試験：ミックス音源を目的に合わせてマスタリングしてもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

目的別マスタリングのプロセスを正しく理解しているかを、実習を通して評価します。
出席：40% 平常点 40% 試験：20%

特記事項

この授業は「サウンドデザイン理論Ⅱ」という授業とセットの為、授業内容は連動しています。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	サウンドデザイン理論 I
担当講師名	吉岡俊一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はエンジニア、プロデューサーとして音源制作を中心に、音楽ビジネス業界において海外と国内で20年以上の経験があります。

授業内容

高品位のプロレベルの機材を揃えたスタジオにおいて実践的で、実習的な授業を展開。音楽を作る上で必要な音響に関する知識や技術を基礎から応用理論までを解説、実習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音源制作において必要な音響理論の習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① スタジオにおけるモニタリングの重要性について説明します。
- ② マイク及びDIに関して解説。またその用途に関する説明を行います。
- ③ ケーブルの種類とその役割について実践的に解説します。
- ④ レコーディングにおけるモニタリングの実習。スピーカーに関しての解説を行います。
- ⑤ レコーディングにおけるモニタリングの実習。位相に関して解説します。
- ⑥ 実際に録音した音源を使って音楽制作ソフトのPro Tools上での編集作業を説明します。
- ⑦ 中間試験：録音したボーカルや楽器の編集を行い、ミックス作業ができる前準備を完成させる。

中間試験評価方法・評価基準

機材を含めたスタジオ設備や、音源制作におけるレコーディング作業の理解度を与えられた課題の作業内容から評価します。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ミキシングにおけるヘッドルームの重要性についての解説をします。
- ⑨ ミキシングにおける VCR の設定とその意味について解説します。
- ⑩ コンプレッサーの効果と現代音楽におけるその影響について解説します。
マスタリングの基礎理論の解説も行います。
- ⑪ レコーディングを実際に行います。
- ⑫ レコーディングを実際に行います。
- ⑬ ミキシングの実習：位相による音像の変化に関して解説します。
- ⑭ ミキシングの実習：ラージスピーカーとニアフィールドスピーカーの
違いと用途について解説します。
- ⑮ 期末試験：マルチトラック音源のミキシングを行います。

期末試験評価方法・評価基準

ミキシングにおけるリスニングの重要性を正しく理解しているかを、実習を通して評価します。
出席：40% 平常点 40% 試験：20%

特記事項

この授業は「レコーディングⅢ」という授業とセットの為、授業内容は連動しています。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	サウンドデザイン理論Ⅱ
担当講師名	吉岡俊一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はエンジニア、プロデューサーとして音源制作を中心に、音楽ビジネス業界において海外と国内で20年以上の経験があります。

授業内容

高品位のプロレベルの機材を揃えたスタジオにおいて実践的で、実習的な授業を展開。音楽を作る上で必要な音響に関する知識や技術を基礎から応用理論までを解説、実習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音源制作において必要な音響理論の習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期で学習した内容の復習と確認を行います。
- ② 録音対象となる一般的な楽器とそのレコーディング方法に関する解説を行います。
- ③ ステレオマイキングに関する基礎知識の解説を行います。
- ④ レコーディングを実際に行います。マイクプリアンプのゲイン設定について解説します。
- ⑤ レコーディングを実際に行います。レコーディングレベルの設定に関して解説します。
- ⑥ ミキシングに必要なさらに実践的な方法論の解説と実習を行います。
- ⑦ 中間試験：外部機器をインサートして、録音したマルチトラック音源のミックス作業をしてもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

正しい手順とセットアップでミキシングが行われているかを評価します。
出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ミキシングの実習：エンベロープとは。またEQにおける周波数帯による

音への影響について解説します。

- ⑨ ミキシングの実習：空間系エフェクターに関する理論を解説します。
- ⑩ ミキシングの実習：ヘッドルームの有効な活用方法とその重要性を説明します。
- ⑪ レコーディングを実際に行います。
- ⑫ レコーディングを実際に行います。
- ⑬ ミキシングの実習：マルチトラックレコーディングされた音源のミキシングにおけるレベルの設定理論を解説します。
- ⑭ マスタリングの実習：CD用音源とストリーミング用音源の違いについて解説します。
- ⑮ 期末試験：ミックス音源を目的に合わせてマスタリングしてもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

目的別マスタリングのプロセスを正しく理解しているかを、実習を通して評価します。
出席：40% 平常点 40% 試験：20%

特記事項

この授業は「レコーディングⅣ」という授業とセットの為、授業内容は連動しています。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	映像制作Ⅲ
担当講師名	坂本健一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

テレビディレクターとしてバラエティー、情報番組、ドラマ、ドキュメンタリーなど数多くのテレビ番組の構成、演出を担当

授業内容

春学期を通じて、情報番組を企画・プリプロから撮影編集まで経て、試写、手直し、完成まで体験しながら映像制作の実践的な知識、スキルを習得していく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次に習得した知識、技術を向上させ、第1クォーターと第2クォーターを使い時間をかけて作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①プリプレゼン 春休み宿題課題発表
- ②企画① “改めてアイデアを具象化するための道筋を考える”
- ③企画② “リサーチ&情報の整理（取捨選択）ファイリング 及び構成の為のハコ作り”
- ④プリプロダクション① “作品のテーマの確立、起承転結、序破急の理解。”
- ⑤プリプロダクション② “企画書の作成。具体的な企画書作成方法”
- ⑥プリプロダクション③ “スケジュール作成及びスタッフ決定。各種書類作成の基本”
- ⑦中間試験 実行用プレゼン（オールスタッフ）“企画書提出。制作計画及び撮影計画説明”

中間試験評価方法・評価基準

作品の目的に合致した、企画書の作成及びわかりやすく聴衆に理解でき共感を持たれるプレゼンが行えているか。チーム作業となるので、そのチーム内でのコミュニケーションが十分に行われ、自己の役割が果たしているか。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧※特別授業 現場で活躍する映画監督及び映像技術者を招き、実状を理解。
- ⑨プリプロダクション④ “香盤表作成 ロケスケ準備、最終ネゴ・アポ確認”
- ⑩撮影（プロダクション）① 計画に沿った撮影を行う。
- ⑪撮影（プロダクション）② 天候等での撮影変更を考慮しスケジュール対応を行う
- ⑫ポストプロダクション① “素材整理インタビュー書き起こし”
- ⑬プリプロダクション “粗編集。取捨選択が的確でテーマに沿った作品か”
- ⑭仮試写 “手直しの箇所確認の為の試写”
- ⑮期末試験（上映会）1年生映像上映会への招待作品として上映。

期末試験評価方法・評価基準

作品完成へ向けての動きは当然の事、上映へ向けての会場設営の各種根回し、ネゴ・アポの遂行。及び上映会の為のプロジェクター設置及び音響の準備等滞りなく行えるか。
出席 20% 平常点 10% 試験 70%

特記事項

※特別授業は、学外での実施もありうる。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	映像制作IV
担当講師名	坂本 健一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

テレビディレクターとしてバラエティー、情報番組、ドラマ、ドキュメンタリーなど数多くのテレビ番組の構成、演出を担当

授業内容

この学期では各人の就活・研修も重なり、多人数での共同作業が難しくなるため少人数グループ及び個人作品の制作を目指す事となる。作品作りの本質を最後に考えるとともに、広く映像の知識とスキルを今一度習得することで、プロの世界へと一歩を踏みやすくするように考えています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

まず作品作りのクリエイティビティの構築を第一と捉え、そのうえで映像技術の最終的なまとめとする。各人の専門性を意識はするが、最低限、3点照明が駆使でき、その中で適切な色の画面を作り、音声も問題なく収録でき、加えてリニア・ノンリニアの編集が行えること目標とする。

授業計画（1回目から7回目）

- ①※特別授業 現場で活躍する映画監督及び映像技術者を招き、実状の理解。
- ②企画① “最終作品の道筋を考える”
- ③企画② “情報収集 及び構成の為のハコ作り”
- ④プリプロダクション① “作品のテーマの確立、制作方法の決定”
- ⑤プリプロダクション② “企画書の作成。関係各所へのアプローチ”
- ⑥プリプロダクション③ “スケジュール作成及びスタッフ・キャスト最終決定”
- ⑦中間試験 実行用プレゼン（オールスタッフ） “企画書提出。制作計画及び撮影計画説明”

中間試験評価方法・評価基準

最終作品の目的に合致した、2年間のまとめとなる企画書の作成として成立しているか。また視聴者・鑑賞者に理解でき、作品として共感を持たれる内容に考えられているか。一方、チーム作業となるので、そのチーム内でのコミュニケーションが十分に行われ、各

人の役割が恙なく稼働し、チームとして問題がないか。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧プリプロダクション① “香盤表作成 ロケスケ準備”
- ⑨プリプロダクション② “最終ネゴ・アポ確認”
- ⑩撮影（プロダクション）① “予定通りに計画に沿った撮影を行う”
- ⑪撮影（プロダクション）② “撮影変更箇所を考慮し撮影を行う”
- ⑫ポストプロダクション① “素材整理、インタビュー書き起こし”
- ⑬ポストプロダクション② “粗編集。取捨選択が的確でテーマに沿っているか”
- ⑭仮試写 “手直しの箇所確認の為の試写”
- ⑮期末試験（上映会） “作品プレゼン、及び作品上映の為の動きができるか”

期末試験評価方法・評価基準

作品完成へ向けての動きは当然の事、上映へ向けての会場設営の各種根回し、ネゴ・アポの遂行。及び上映会の為のプロジェクター設置及び音響の準備等滞りなく行えるか。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

特記事項

※特別授業は、学外での実施もありうる。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	映像理論 I
担当講師名	植田 寛
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

フリーディレクターとして、企画・演出・制作およびノンリニア編集の実務経験あり。
Master of Science in Global Information and Telecommunication Studies

授業内容

映像制作とは、単に映像技術の網羅したものでなく、その裏には常に意図が孕まれています。アルフレッド・ヒッチコック監督の『サイコ』を取り上げ、その作品中に潜む創造性と表現技術を紐解いていきます。第 2Q では絵画から写真への時代から映像史を理解し、第 3Q 以降に学ぶ映像記号論やモンタージュ理論についての導入を図ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

映像の学習とは単に機材の操作テクニックを習得するものではなく、はじめに創造性ありきです。如何なるメッセージを如何なる技術を使って表現するかなのです。その真意を実感できる事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ヒッチコックの人物像 “アルフレッド・ヒッチコックの生い立ち、映画との接点”
- ②サイコ① オープニング “マクロからミクロへの手法、冒頭にでるテロップの伏線”
- ③サイコ② 中古車～モーテル “観客に情報を多く与える事の意図”
- ④サイコ③ シャワールーム “シャワールームでの弁証法的モンタージュ表現方法”
- ⑤サイコ④ アボガーストの死 “俯瞰撮影による「見せずして魅せる」技法”
- ⑥サイコ⑤ エンディング 及びプロモ活動 “大胆な「サイコ」プロモーション手法”
- ⑦中間試験 ペーパー試験

中間試験評価方法・評価基準

サイコの映画を表層だけではなく、撮影・編集等の深い「意図」が理解できているか。映像制作とは単に撮影して編集するものではなく、ヒッチコックの「撮影の前に映画はほぼ出来上がっている」と言わしめる、その綿密な「意図」とその準備をすることがいかなることかの理解。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧映画史① 絵画から写真 “写真と芸術、ニエプス、ナダール様々な写真家”
- ⑨映画史② 写真から映画 “マイブリッジの連続写真の果たした役割”
- ⑩映画史③ 技術革新 “リュミエールのシネマトグラフとエジソンのキネトスコープ”
- ⑪映画史④ 編集の目覚め “メリエスが築いた映画の希望、エンターテインメントの目覚め”
- ⑫映像史⑤ 謎のカットバック “ポータ「アメリカの消防夫の生活」にみる映像コード”
- ⑬映画史⑥ 理論的映像論 “グリフィスから始まる理論的映像制作の考察”
- ⑭映像史⑦ 芸術的映画 “フィルム・ダール及びヌーベルバーグが残した遺産”
- ⑮期末試験 ペーパー試験

期末試験評価方法・評価基準

映画黎明期の映像史基本が理解できているか。単に作品名だけではなく、当時の作品が後にどの様に影響を与え展開させたかの理解を図る。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	映像理論Ⅱ
担当講師名	植田 寛
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

フリーディレクターとして、企画・演出・制作およびノンリニア編集の実務経験あり。
Master of Science in Global Information and Telecommunication Studies

授業内容

映像をアカデミックに捉える、加えて現場的に考えていきます。感性とは野放図に成立するものではなく、知性の表れであり、先人たちの考えを学ぶ事が感性を磨くことにつながります。それを実社会で活用するために混沌としている現状の映像業界を理解し、新時代に柔軟に対応しうる知識を習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

モンタージュとは編集（仏）と訳されるが、単につなげるだけではなく、そこには様々な考えが存在し、様々な編集技法が存在する。ここでは編集することが如何なることかを考察し真意を理解し、実際の編集に役立つことのできる知識の習得を狙う。

授業計画（1回目から7回目）

- ①映像記号論 1
"ソシュールの記号論 シニフィエとシニフィエアン言語学と映像記号論について"
- ②映像記号論 2
"C. メッツ「詩的映像」について、寅さん映画にみる denotation, connotation"
- ③モンタージュ理論 1
"プドフキンとクレショフの考え方について クレショフ効果とは"
- ④モンタージュ理論 2
"エイゼンシュタインの考え方について 弁証法的モンタージュとは"
- ⑤モンタージュ理論 3
"アンドレ・バサンの考え方について「禁じられたモンタージュ」とは"
- ⑥モンタージュ理論 4
"ジガ・ヴェルトフの考え方について 映画「カメラを持った男」&「キノキ革命」の意味"
- ⑦中間試験 "ペーパー試験（原稿用紙論述試験）"

中間試験評価方法・評価基準

クレシヨフ、プドフキン、エイゼンシュタイン、バサン、ヴェルトフそれぞれの「モンタージュ」の考え方が理解できているか。また自分の言葉でその違いが説明できるか。
出席 20% 平常点 10% 試験 70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧デェペロップメント
“企画書の3つの形 コンペ、実行用、売り込み用。6W2Hの現状”
- ⑨プリプロダクション
“コンテンツビジネスの特殊性 利益だけが目的ではなくなるケース”
- ⑩プロダクション
“予算書についての理解等プロダクションの実際”
- ⑪ポストプロダクション
“編集・MAのスタッフとしての位置について”
- ⑫現場での企画書
“現場での企画書について”
- ⑬実践的スタッフワーク
“撮影現場におけるスタッフキャストの位置関係”
- ⑭実際的マネージメント
“制作の精算処理及びマーケティングについて”
- ⑮期末試験 ペーパー試験&ノート提出

期末試験評価方法・評価基準

各工程の内容を理解し、実践できうる知識の習得が行えているかどうか
またノートの提出により、重要な箇所、及びポイントが漏れなくメモできているかどうかを確認します。
出席 20% 平常点 10% 試験 70%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	映像技術論 I
担当講師名	植田 寛
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

フリーディレクターとして、企画・演出・制作およびノンリニア編集の実務経験あり。
Master of Science in Global Information and Telecommunication Studies

授業内容

映像の制作工程における「プロダクション（撮影）」及び「ポストプロダクション（編集・MA）」の中で、“光”や“レンズ”の理解に始まり、入力された映像信号や編集時に加えるエフェクト処理。感情や臨場感を与える音楽・効果音・NA等を加える MA 作業（音声処理作業）などの基本技術を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

近年、映像は、放送や DVD パッケージなどの媒体だけではなく、SNS やインターネットを介した配信技術も普及し、広くスマホや等のモバイル端末でも活用されるようになり、多様化・高度化の一途をたどっています。この進化に的確に対応できる知識・スキルを習得し、新しい時代の映像を支える事を目標とする。

授業計画（1回目から7回目）

- ①映像信号 “ビデオと TV 放送フォーマット等（教科書 p14-19） Y・C 信号の理解他”
- ②モニター “デジタル放送フォーマット等（p20-27）フル HD・4K・8K”
- ③映像に関わる PC 基礎 “インターネット放送の仕組み等（p 27-35）ストリーミング放送の実際”
- ④映像データ処理 “圧縮とコーデック及び動画形式等（p 40-47）解像度・圧縮形式の理解”
- ⑤カメラ内部信号処理 “4:2:2 と 4:4:4 の比較等（p72-77）コンポジット・コンポーネント”
- ⑥照明基礎知識 “可視光線、色温度等（p84-89）コンバージョンの使用法”
- ⑦中間試験 ペーパー試験

中間試験評価方法・評価基準

- ・映像信号の基礎・編集技術の基礎・デジタル映像信号の規格・各種 VTR フォーマット
- ・放送の基礎・編集機器、周辺機器について・映像信号の測定、管理について
- ・撮影技術の基礎等の確認

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧AE 基礎①インターフェイス “After Effects 基本的なショートカット等の理解”
- ⑨AE 基礎②コンポジション作成 “After Effects コンポジション作成、フレーム適性設定”
- ⑩AE 基礎③タイムラインについて “タイムラインとキーフレームアニメーション原理”
- ⑪AE 基礎④モーションスケッチ “モーションスケッチ、時間伸縮、タイムリマップ”
- ⑫AE 基礎⑤プレビューとレンダリング “プレビュー&レンダリング設定”
- ⑬AE 基礎⑥レイヤーの活用 “レイヤー活用、プリコンポーズ”
- ⑭AE 基礎⑦オリジナルムービングロゴ制作 “同Qまとめ作業としての各自ロゴ作成”
- ⑮期末試験 “実技試験 (作品提出) 及びペーパー試験”

期末試験評価方法・評価基準

AE の基本中の基本からはじめて、動画の簡単なエフェクトやタイトルモーションを使用したオープニングテロップ等の作成ができるか確認する。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	映像技術論Ⅱ
担当講師名	植田 寛
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

フリーディレクターとして、企画・演出・制作およびノンリニア編集の実務経験あり。
Master of Science in Global Information and Telecommunication Studies

授業内容

現在、映画やテレビ番組等、多くのコンテンツ制作に広くノンリニア編集は利用されている。だが、その礎となっているのはアナログ技術であり、今もなおフィルムの光学的処理の多くが現在のノンリニアエフェクトに取り入れられている。この授業では、そのアナログ時代にどのように撮影・照明・編集が行われていたかを知る事を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

現状ノンリニア編集で便利になっているポスプロではあるが、その前身のアナログシステムを理解する事は非常に重要である。そのアナログビデオのシステムを紐解き、現場で要求される知識とスキルを習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①アナログカメラ（テープ）実習 “DV ミニテープを用いた4：3画面の収録を行う”
- ②アナログカメラ（テープ）実習 “アナログオフライン編集での各信号の機能”
- ③アナログ（テープ）オフライン編集 “コントロール信号シンク入れ”
- ④アナログ（テープ）オフライン編集 “インサート編集”
- ⑤アナログ（テープ）オフライン編集 “アッセンブル編集”
- ⑥アナログ（テープ）オフライン編集 “AB ロールの基本”
- ⑦中間試験 簡単なアナログ作品制作（試験作品）

中間試験評価方法・評価基準

基本的なアナログオフライン編集が行えるか。アッセンブル編集及びインサート編集が理解でき駆使することができるかを確認する。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧レンズ “被写界深度とフランジバック調整方法。チャートを使用した調整方法”
- ⑨モニター調整 “SMPTE カラーバーを用いたモニター調節。ONLY BLUE を利用した調節”
- ⑩モニター調整 “SMPTE カラーバーを用いたモニター調節。簡易 WF を利用した調節方法”
- ⑪三灯ライトキット実習 “カポック&センチュリーを利用した間接照明の行い方”
- ⑫三灯ライトキット実習 “屋外の光が入る部屋での色温度変換フィルター使用方法”
- ⑬カメラフィルター使用方法実習 “ND, コンバージョンフィルターの設定。各種フィルターの使用方法”
- ⑭課題作品制作 4Q まとめとしての簡単な作品制作（期末試験用）
- ⑮期末試験（作品提出） 作品試写会・講評

期末試験評価方法・評価基準

実際の現場に出る直前として、現場に応じた動き方ができるかを求める。同時に各種の調整や設定が的確に且つスピーディーに行われているかを評価する。

出席 20% 平常点 10% 試験 70%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	照明Ⅲ
担当講師名	宮崎正康／井口憲明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

宮崎正康：1990年より、コンサートやライブ、バレエ、ダンスなどの舞台照明にプランナー、オペレーターとして従事。
日本照明家協会1級技術者・舞台監督協会会員。

井口憲明：コンサートやライブ、バレエ、ダンスをはじめ、様々なイベントの照明プランやオペレートや機材のメンテナンス、ホール管理業務、舞台監督、その他イベント業務を経験しています。

授業内容

ムービングライトやLED機材を使用しGrandMa2,TigerTouch2の知識を深める。
ムービングライトの仕込みばらしを安全かつ確実に行う実習をかさねる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

高所で安全確実な作業をすることができ、
1年時に学んだことを踏まえ、ムービングライトを扱うことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「1年次の復習」 今まで学んだことを復習し、基礎を確認します。
- ② 「GrandMa2について1」 GrandMa2について基礎を学びます。
- ③ 「ムービングライトについて1」 ムービングライトの内部構造や取り扱い方を学びます。
- ④ 「ムービングライトについて2」 ムービングライトのDMXプロトコルについて学びます。
- ⑤ 「GrandMa2について2」 GrandMa2でキューやエフェクトの打ち込み方を学び、曲にあわせて打ち込み、理解します。
- ⑥ 「プランについて」 ムービングライトを使用した明かりの考え方や見え方を学び実際にプランをして理解します。
- ⑦ 中間試験：「実技試験」 課題曲を元にプランをし、打ち込み、オペレートをするという本番に近い形で明かりを発表します。

中間試験評価方法・評価基準

面談による口頭質問と、実技による卓の取り扱いやムービングライトの使用方法、プランの出来具合で評価します。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「1クォーターの復習」今まで学んだことを復習し、できなかったことを確認します。
- ⑨ 「ムービングライトについて3」ポジションやフォーカスやズームについてもっと理解をし、きれいな明かりを作ります。
- ⑩ 「ムービングライトについて4」ゴボの回転やプリズムについてもっと理解をし、きれいな明かりを作ります。
- ⑪ 「卓の応用1」トラッキング機能を理解します。
- ⑫ 「卓の応用2」タイムのかけ方を理解します。
- ⑬ 「プランをしてみる1」ムービングライトを使用した仕込みを元に自由な曲の明かりをプランします。
- ⑭ 「プランをしてみる2」自由な曲を元にプランをし、オペレーターに打ち込みをしてもらうことにより、客観的に明かりが見ることができる。
- ⑮ 期末試験：「実技試験」自由な曲を元にプランをし、打ち込み、オペレートをするという本番に近い形で明かりを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

プランナーとオペレーターがコミュニケーションを取れているか、意図した明かりがだせているか、実技による卓の取り扱いやムービングライトの使用方法、プランの出来具合で評価します。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	照明IV
担当講師名	宮崎正康／井口憲明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

宮崎正康：1990年より、コンサートやライブ、バレエ、ダンスなどの舞台照明にプランナー、オペレーターとして従事。
日本照明家協会1級技術者・舞台監督協会会員。

井口憲明：コンサートやライブ、バレエ、ダンスをはじめ、様々なイベントの照明プランやオペレートや機材のメンテナンス、ホール管理業務、舞台監督、その他イベント業務を経験しています。

授業内容

一般照明とムービングライトの仕込み、明かりづくりの基本的な考え方を学び、卓の操作方法をマスターし、プログラムをします。作業時間、照明プラン、操作、役割分担と相互理解を深めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プラン通りにプログラムができ、限られた時間の中で修正などを終わらせることができ、要望や希望に近い明かりを魅せることができるように完成度の高い照明プランをできるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「復習」今まで学んだことの復習をし、できなかったことを確認します。
- ② 「電源と信号線について」ケーブル、DMXなどの取り扱いや構造を再確認します。
- ③ 「仕込み図の書き方」CADの説明をし、仕込み位置の大事さも理解します。
- ④ 「パソコンを使用した打ち込み1」GrandMaOnPcについて説明します。
- ⑤ 「パソコンを使用した打ち込み2」Titansimulatorについて説明します。
- ⑥ 「疑問をなくす」わからないことの総点検。
- ⑦ 中間試験：「実技試験」限られた時間でシーンをどれだけ打ち込めるかテストします。

中間試験評価方法・評価基準

卓の操作、用語の理解度、ムービングライトの取り扱い方を評価します。
出席:30% 平常点:30% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「仕込み作業の再確認」高所作業時の注意点、安全第一を意識し、仕込み図どおりに仕込みをします。
- ⑨ 「打ち込み作業」各々でプランした明かりをプログラムします。
- ⑩ 「データの修正」プログラムした明かりを再生し、修正作業をします。
- ⑪ 「機材のメンテナンス」ムービングライトや一般照明の機材のメンテナンスを行い機材の大切さを学びます。
- ⑫ 「DMX ケーブルの作成」DMX ケーブルを作成し、構造を理解します。
- ⑬ 「仕込み図作成」自由に仕込み図を作成し、集大成としての仕込みをします。
- ⑭ 「総括」2年間の総復習をします。
- ⑮ 期末試験：「実技試験」自由な曲を選び、2年間学んだことを全て発揮したプラン、オペレート进行测试します。

期末試験評価方法・評価基準

安全かつ正確な作業、コミュニケーション、時間を守る、2年間の意味がある明かりをだすことができるようになったか確認し評価します。
筆記試験も行います。総まとめになります。

特記事項

2年生になるとパソコンがあると非常に役立つ授業が多く、ぜひ持参してほしいです。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	舞台・テレビジョン照明理論 I
担当講師名	宮崎正康／井口憲明
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

宮崎正康

1990年より、コンサートやライブ、バレエ、ダンスなどの舞台照明にプランナー、オペレーターとして従事。日本照明家協会1級技術者・舞台監督協会会員。

井口憲明

コンサートやライブ、バレエ、ダンスをはじめ、様々なイベントの照明プランやオペレーターや機材のメンテナンス、ホール管理業務、舞台監督、その他イベント業務を経験しています。

授業内容

様々な舞台やコンサート・イベント等で使用される灯体の種類や、名称・効果などを理解し、安全かつ正確な作業と各機材の取り扱いを理解します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

機材の名称や特徴、取り扱い方などを理解し、照明効果を使い分けることができる。電気の取り扱いや信号の流れを理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「一般照明の灯体と名称」1年次にも使用した一般照明の灯体の名称や役割・効果を再確認し、安全な作業を行う。
- ② 「パーライトについて」パーライトについて理解し、種類や正確な取り扱いについて学ぶ。
- ③ 「ソースフォーについて」ソースフォーについて理解し、種類や正確な取り扱いについて学ぶ。
- ④ 「特殊機材について1」ディスクマシンについて理解し、種類や正確な取り扱いについて学ぶ。
- ⑤ 「特殊機材について2」先玉について理解し、種類や正確な取り扱いについて学ぶ。
- ⑥ 「特殊機材について3」スパイラルについて理解し、種類や正確な取り扱いについて学ぶ。

- ⑦ 中間試験：「筆記試験」色々な灯体の名称と取り扱いについて。

中間試験評価方法・評価基準

色々な灯体の名称と役割や効果が理解できているか。安全かつ正確な取り扱いができてい
るか。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「照明機材のまとめ」今までに学んだ機器を再認識し、
種類や取り扱い、効果について理解を深める。
- ⑨ 「その他の灯体」ストロボや波マシンについて理解し、
種類や正確な取り扱いについて学ぶ。
- ⑩ 「電源について」電源容量の確認、使用電気量の計算・分電盤の注意事項。
- ⑪ 「DMXについて」信号線の取り扱い。
- ⑫ 「LTP と HTP について」調光卓の出力方法の違いの理解。
- ⑬ 「舞台用語について1」照明にかかわる舞台用語の理解。
- ⑭ 「舞台用語について2」映像にかかわる舞台用語の理解。
- ⑮ 期末試験：「筆記試験」様々な用語の確認。

期末試験評価方法・評価基準

電源や、信号線・DMX など、照明の用語や、その意味と、舞台映像用語の確認。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	舞台・テレビジョン照明理論Ⅱ
担当講師名	宮崎正康／井口憲明
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

宮崎正康

1990年より、コンサートやライブ、バレエ、ダンスなどの舞台照明にプランナー、オペレーターとして従事。日本照明家協会1級技術者・舞台監督協会会員。

井口憲明

コンサートやライブ、バレエ、ダンスをはじめ、様々なイベントの照明プランやオペレーターや機材のメンテナンス、ホール管理業務、舞台監督、その他イベント業務を経験しています。

授業内容

照明にかかわる全体の輪郭について、用語や専門用語を再確認する。
仕事をする上で必要な知識を確実に身につけ、全体での各分野の役割や、時間配分などを確認する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各分野での照明の役割や明かりのあて方を理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「復習」 今まで学んだことの復習。
- ② 「舞台スタッフについて」 各部署の役割分担を理解する。
- ③ 「劇場の設備について」 劇場にある設備の名称とその役割。
- ④ 「色々な照明の仕事について」 お芝居やダンスなどの用語を学ぶ。
- ⑤ 「TVの歴史について」 カラーテレビへの写り変わり。
- ⑥ 「放送設備について」 放送設備の名称とその役割。
- ⑦ 中間試験：「筆記試験」 各分野の名称の理解

中間試験評価方法・評価基準

照明にかかわる各分野の用語の理解。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧ 「仕込み図の基本」図面の基本の整理。
- ⑨ 「舞台図面の基本」舞台図面の見方。
- ⑩ 「照明仕込み図の基本」照明仕込み図の書き方の確認。
- ⑪ 「ピンスポット1」ピンスポットの取り扱いの確認。
- ⑫ 「ピンスポット2」サーカスなどのピンの取り扱い。
- ⑬ 「色々な卓」学内にない卓の取り扱い方法。
- ⑭ 「総括」いままでの整理と復習。
- ⑮ 期末試験:「筆記試験」2年間の総復習。

期末試験評価方法・評価基準

2年間の総復習と実践する前準備のデスクワークの確認。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	コンピュータミュージックⅢ
担当講師名	滝口 北斗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM/DAW を用いた楽曲制作(作編曲・レコーディング)やアーティストプロデューサー(配信レーベルの主宰・運営)の実務経験を持ちます。

授業内容

一年次で学習したノウハウを踏まえて作品制作を行っていきます。DAWを用いたMIDIとAUDIOを組み合わせた制作のスタイルの学習し、第2クォーターでは楽曲の構成楽譜の書き方の学習や音の表現(各楽器の音色の特徴、使用するエフェクト、編集等)を学びます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

音に対しての細やかな感性を磨き、今後制作する作品に反映出来る力を習得します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 制作を行う楽曲の方向性を決定し、制作の方針を立てる
- ② 様々なジャンルの音楽を理解し、そのジャンルに応じたエフェクトを考える
- ③ Delay について理解し、その効果を考える
- ④ Chorus その他 様々なエフェクトについて学ぶ
- ⑤ ミックスを行う上で、エフェクトを使う前提でバランスを見直す
- ⑥ 様々なエフェクターを使用して音色を加工する
- ⑦ 中間試験：これまでの授業内容の理解

中間試験評価方法・評価基準

本試験 40%：プロジェクトファイルの確認で、理解度とオペレーション能力を見ます。
平常点 50%：授業態度と出席状況も評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 複合 FX について

- ⑨ オートメーションコントロールについて
- ⑩ ラフミックスについて
- ⑪ ステムミックス
- ⑫ トラックダウンについて
- ⑬ マスタリングについて
- ⑭ マスターエフェクトについて
- ⑮ 期末試験：これまでの授業内容の理解

期末試験評価方法・評価基準

本試験 50% : DAW の基礎知識(エフェクトや波形編集)の理解が作品(プロジェクトファイル)に反映されているかと、ハイサンプリングから CD/MP3 への変化をどのように感じ取ったかをレポートで見ます。

平常点 50% : 授業態度と出席状況も評価します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	コンピュータミュージックⅣ
担当講師名	滝口 北斗
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM/DAW を用いた楽曲制作(作編曲・レコーディング)やアーティストプロデューサー(配信レーベルの主宰・運営)の実務経験を持ちます。

授業内容

リアレンジ、リミックスも視野に入れたトラックメイキングの手法を中心に学びます。構成譜とコード譜、オリジナルの MIDI 素材や録り終えたオーディオ素材などを使い、複数の制作環境を併用したブラッシュアップなども行います。これまでに習得した DTM/DAW のスキルを活用した作品を完成させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

より柔軟な音楽への発想・想像力の育成を目指します
一つの作品制作を通して、実際の制作現場に近い形での一連の流れを体感していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Pops/Rock ジャンル研究:楽曲の特徴と制作手法について
- ② Black Music ジャンル研究:楽曲の特徴と制作手法について
- ③ Electro Music ジャンル研究:楽曲の特徴と制作手法について
- ④ 楽曲構成の編集について
- ⑤ オーバーダビングについて
- ⑥ エフェクトが生み出す世界観について
- ⑦ 中間試験：これまでの授業内容の理解

中間試験評価方法・評価基準

本試験 50%：プランニングに沿った作品の完成度と円滑に制作進行ができたかを評価。
平常点 50%：授業態度と出席状況も評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コンサート PA 専攻は提示されたオーディオデータにて MIX
- ⑨ レコーディング専攻は Mix/Remix
- ⑩ 映像制作専攻は Remix/打ち込み
- ⑪ 照明専攻は Remix/打ち込み
- ⑫ Mix:エフェクトの応用
- ⑬ Mix:特殊なエフェクト
- ⑭ 波形編集の応用
- ⑮ 期末試験：これまでの授業内容の理解

期末試験評価方法・評価基準

本試験 **50%**：プランニングに沿った作品の完成度と円滑に制作進行ができたかを評価。
また、学習した内容が作品に反映されているかを見ます
平常点 **50%**：授業態度と出席状況も評価します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音楽著作権 I
担当講師名	林 達也
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界（マネジメント/レコード会社/CD 店舗など）と著作権セミナー講師の経験を持ちます。

授業内容

音楽ビジネスにおける著作権の基本と、作詞家、作曲家の関連各社の関係性について学び、音楽出版社の具体的な役割や著作権管理事業者や外国作品のサブパブリッシャー等、派生してくる業務について理解。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽出版社の具体的な役割や JASRAC、e-lisence 等の著作権管理事業者について理解を深め、技術者にとっても必要な権利を理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽制作者の著作権：音楽制作における著作権の概要
- ② レコード会社について1：制作（プロデューサー、ディレクター）の仕事
- ③ レコード会社について2：宣伝（各媒体へのプロモート）/営業（1枚のCDの内訳）
- ④ プロダクションとアーティストの関係：アーティスト・マネージメント
- ⑤ 音楽出版って楽譜を出版する会社？：音源の制作・宣伝および著作権の保護・管理
- ⑥ 音楽利用者って誰？：音楽を利用してそれを生業にしている様々な会社
- ⑦ 中間試験：筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

初歩的な著作権についての理解を確認するための筆記試験。
出席：30% 平常点：40% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ JASRAC、NexTone って？：音楽著作権管理団体

- ⑨ 著作権っていつか消滅するの? : 個人の著作者 (死後 70 年保護) / 映画 (公表後 70 年保護) 他
- ⑩ TV・ラジオ局とのタイアップ : TV・ラジオ局系音楽出版と著作権
- ⑪ CM で音楽を使用すると… : 使用料が免除される時、されない時
- ⑫ 広告代理店とクライアント : 代理店の種類と CM プロモート
- ⑬ ISRC コードって? : 音楽配信
- ⑭ 原盤契約 : 一枚の CD に含まれる原盤印税
- ⑮ 期末試験 : 筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

作詞家・作曲家と音楽出版社の関係やレコード会社との契約及び印税の支払いについての簡単な計算式問題で理解度を評価します。

出席 : 30% 平常点 : 40% 試験 : 30%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音楽著作権 II
担当講師名	林 達也
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界（マネジメント/レコード会社/CD 店舗など）と著作権セミナー講師の経験を持ちます。

授業内容

様々な場所で発生する作詞家・作曲家、実演家(アーティスト、ミュージシャン他)、レコード会社（レコード製作者）の権利を知り、楽曲や音源利用の際の許諾先を学ぶ。後半は、今まで学んだ事を基に、更に専門的な音楽著作権に関する理解度を深め年間総括としていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽出版社の具体的な役割や JASRAC、e-lisence 等の著作権管理事業者について理解を深め、技術者にとっても必要な権利を理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 著作隣接権：相続できる財産権(相続できない「人格権」との比較)
- ② 実演家とレコード製作者の権利：制作された音源に働く権利
- ③ 作詞家・作曲家の演奏権：コンサート、ホテルやレストラン、ファッションショーなどでの BGM
- ④ 著作権侵害：音楽の著作権侵害とは？判例などを紐解く
- ⑤ あの曲をカバーしてライブで歌いたい：国内外の楽曲を歌う場合の許諾及び使用料の支払い
- ⑥ 喫茶店での BGM：市販用 CD を生 CD にコピーしたら
- ⑦ 中間試験：筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

授業で扱った内容の理解を確認するための筆記試験
出席：30% 平常点：40% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 放送局で音楽が流れた時：音源の権利者に使用料が分配されるまでの仕組み
- ⑨ 貸しレコード店でのレンタル：作詞家・作曲家とレコード製作者・実演家との「貸与権」の違い
- ⑩ 音楽配信とインターネット放送：作詞家・作曲家の「公衆送信権」と
実演家・レコード製作者の「送信可能化権」の侵害
- ⑪ 二次的著作物って？："漫画をTVアニメ化、小説を映画化 ヒット曲が映画化"
- ⑫ 著作隣接権の制限：教育や公共施設などでの音楽使用や貸し出しの場合に制限される
様々な権利
- ⑬ 著作権契約書の作成：楽曲登録の為の必要事項
- ⑭ 音源制作する時の申請や許諾：レコーディングした音源を発売するまでの許諾、
申請、登録までの手順
- ⑮ 期末試験：レポート提出もしくは筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

実際の著作権契約書の内容、様々なシーンでの音楽の利用と許諾、タイアップによる共同出版契約や音源制作に関わった関連会社の権利を学んだ一年。音楽著作権全体の理解を判断します。

出席：30% 平常点：40% 試験：30%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	プレゼンテーションⅢ
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

音楽・エンタテインメントの世界で仕事をする上で、知識・技術と同じように大切な事は、人と円滑なコミュニケーションを取る事ができる事です。この科目では、他者との共同作業を行いながら発想し、制作を行い、他者に見られる事を意識したプレゼンテーションを行うまで反復的に習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

卒業制作を通じて他者とのコミュニケーション力をアップさせる事を目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 企画立案①：各グループ毎に企画会議を行い、自由な発想で企画立案を行う
- ② 企画立案②：アイデアを形にする方法を具体的に考える
- ③ 企画アイデアのプレゼン：企画アイデアをプレゼンし、他者からの質問や意見を聞く
- ④ 企画書の作成①：アイデアを企画書の形へ、人に見られる事を意識した企画書
- ⑤ 企画書の作成②
- ⑥ スケジュール管理：各グループ毎に制作進行のスケジュールを共有、管理を行う
- ⑦ 中間試験：企画書の提出

中間試験評価方法・評価基準

企画書の提出。各グループ毎にコミュニケーションをとりながら進行できているかをチェック

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ディスカッション①：各グループ毎に情報交換・共有を行い、共通の認識を持つ為に

議論を行う。

- ⑨ ディスカッション②
- ⑩ ディスカッション③
- ⑪ 企画プレゼンテーション①グループ毎に企画のプレゼンテーションを実施。
内容の確認と問題点の抽出。
- ⑫ 企画プレゼンテーション②
- ⑬ 企画プレゼンテーション③
- ⑭ 企画プレゼンテーション④
- ⑮ 期末試験：グループ毎の企画プレゼンテーション

期末試験評価方法・評価基準

グループ毎の企画プレゼンテーションにて評価

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	プレゼンテーションⅣ
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

音楽・エンタテインメントの世界で仕事をする上で、知識・技術と同じように大切な事は、人と円滑なコミュニケーションを取る事ができる事です。この科目では、他者との共同作業を行いながら発想し、制作を行い、他者に見られる事を意識したプレゼンテーションを行うまで反復的に習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

卒業制作を通じて他者とのコミュニケーション力をアップさせる事を目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① スケジュール・進捗状況確認：各グループ毎の進捗状況の確認・報告の方法
- ② スケジュール・進捗状況確認
- ③ 卒業制作①：グループ毎の指導担当者に状況を報告しながら作品を制作。
報告・連絡・相談・実行の徹底
- ④ 卒業制作②
- ⑤ 卒業制作③
- ⑥ 卒業制作④
- ⑦ 中間試験：制作の中間報告

中間試験評価方法・評価基準

制作の中間報告を実施し信仰の度合いによって評価
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 報告：要点をまとめて報告を行う

- ⑨ 確認：最終のプレゼンテーションに向けて要素の整理
- ⑩ プレゼンテーション①：制作グループ毎に完成した作品をプレゼンテーション。
見ている人に伝える事を意識する
- ⑪ プレゼンテーション②
- ⑫ プレゼンテーション③
- ⑬ プレゼンテーション④
- ⑭ プレゼンテーション⑤
- ⑮ 期末試験：完成した作品の内容確認と最終プレゼンテーション

期末試験評価方法・評価基準

完成した作品の内容と最終プレゼンテーションにて評価
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	就職講座Ⅱ
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

実際にエンターテインメントの仕事の現場経験を積んだ講師が指導いたします。

授業内容

音響・映像・照明分野への就職活動を円滑に進める為の準備を行う為の講義。一般的な面接の方法や書類作成の方法から、具体的な企業への対策など就職活動を広範囲で円滑に進められるように準備を行うとともに、社会人としての教育を行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

具体的に就職活動を行い、就職を決定させる事を目標とする

授業計画（1回目から7回目）

- ① 企業調査①
- ② 企業調査②
- ③ 面接
- ④ 就職試験とは①
- ⑤ 就職試験とは②
- ⑥ 就職試験とは③
- ⑦ 中間試験：活動報告

中間試験評価方法・評価基準

毎回の就職活動報告と結果による評価

出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 企業調査③
- ⑨ 企業調査④
- ⑩ 企業調査⑤

- ⑪ 活動報告①
- ⑫ 活動報告②
- ⑬ 活動報告③
- ⑭ 活動報告④
- ⑮ 期末試験：活動の報告

期末試験評価方法・評価基準

各担当者への報告・相談と就職状況により評価
出席：50% 平常点：50%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	プロジェクト I
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

「プロデュース I」の授業とリンクする遠隔授業。「プロデュース I」はグループ制作作業であるが、その中で各個人が担当する作業において時間をかけた情報の研究や調査等を行う必要がある為、遠隔授業としています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

人に見せる事を意識した作品を完成させ、作品に合わせた公開方法で多くの人に見て頂く事が出来る作品を作る事を目標とする

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

制作内容と進行状況进行评估します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

進捗状況の確認を行い評価します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	プロジェクトⅡ
担当講師名	佐藤清志／植田 寛／青木美恵
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

「プロデュースⅡ」の授業とリンクする遠隔授業。「プロデュースⅡ」はグループ制作作業であるが、その中で各個人が担当する作業において時間をかけた情報の研究や調査等を行う必要がある為、遠隔授業としています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

人に見せる事を意識した作品を完成させ、作品に合わせた公開方法で多くの人に見て頂く事ができる作品を作る事を目標とする

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

制作内容と進行状況进行评估します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

制作内容と進行状況进行评估します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツアイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接(大学)
- ⑨面接(仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介Ⅰ
- ⑫コンサート紹介Ⅱ
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の数え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	音楽著作権初級
担当講師名	専任講師
学期	春 or 秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

エンターテインメントの業界での仕事の経験があり、本学で専任講師として経験を積んだ者が指導いたします。

授業内容

この科目は「音楽著作権検定」を受験する方がいた場合、合格を目的とする選択科目であり、講義形式の授業です。(全7回)

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

音楽著作権検定試験の対策講座、試験の合格を目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 映画音楽・ゲームの著作権
- ② カラオケ・演劇・ライブの著作権
- ③ レンタルレコードの著作権
- ④ 音楽配信 (ダウンロード) の著作権
- ⑤ 音楽配信 (サブスクリプション) の著作権
- ⑥ 音楽配信 (動画投稿サイト) の著作権
- ⑦ 復習

中間試験評価方法・評価基準

検定試験の結果で評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

期末試験評価方法・評価基準

検定試験の結果で評価します。

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

本学科に関連する企業様にご協力いただき、実際に企業様の一員として現場に出て、現場の空気、仕事の流れ、コミュニケーションの必要性を学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際に現場での仕事を体験し、業界で必要とされている人材像を理解する

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

特記事項

学科名	音響・映像・照明学科
科目名	インターンシップⅡ
担当講師名	
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

本学科に関連する企業様にご協力いただき、実際に企業様の一員として現場に出て、現場の空気、仕事の流れ、コミュニケーションの必要性を学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際に現場での仕事を体験し、業界で必要とされている人材像を理解する

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

特記事項